

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況 11/17本日極大観測 第20期-が示した11/7=第21期-極大
現況では11/30±を示す可能性 11月末迄発生の可能性否定

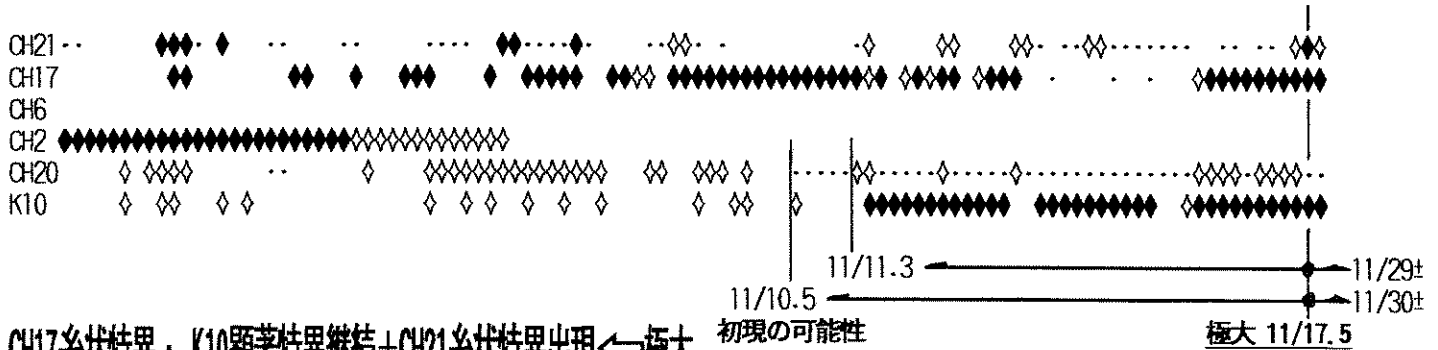
【STAGE-20】

STAGE-20が示した時期

【STAGE-21】

STAGE-21極大

11/1 11/2 11/3 11/4 11/5 11/6 11/7 11/8 11/9 11/10 11/11 11/12 11/13 11/14 11/15 11/16 11/17 11/18
Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh Oh 0



CH17糸状特異・K10顕著特異継続+CH2糸状特異出現←極大

11/11~13 11/13~15 に2度に渡り高知観測点 K10に顕著特異が継続出現したことから、中心の11/13.5 に極大がある可能性と考えました。その後、11/15夜からさらに K10に顕著特異が出現し、ハヶ岳のCH17にも糸状特異が継続出現しました。
あくまでも第20期-で、11/17±を示す前兆形態が示されていたことから、11/15 夜からのCH17、K10顕著特異が第20期-の4番目の極大なのか、11/17 に極大が認識され、第20期-が示す11/17 に次の期-である第21期-の極大が出現する可能性なのか、昨日の段階では両方の可能性があり、確定できませんでした。

本日 11/17 正常基線を記録していたハヶ岳のCH21に午前10時頃より糸状特異が出現し、昼頃が中心として極大認識ができます。夕刻現在CH17糸状特異も K10顕著特異も継続中であり、第20期-が示した 11/17は地震発生日ではなく、第21期-

の極大=11/17.5 であることが確認されました。
11/11.5 から継続出現の K10顕著特異は、本日の11/17.5 極大に関係した特異であることとなります。
本日11/17.5 極大に対する初現は、この K10の初現 11/11.5 である可能性もありますが、CH20が顕著化した 11/11.3の可能性が考え易い様です。但し、前日の11/10.5 からCH20に、その後の変動と同型の弱い前兆が見えることから、上記のとおり、11/10.5 と11/11.3 の2種の初現の可能性を、本日 11/17.5極大に対応させた結果、11月末時期が計算されました。
今後、さらに極大が出現しない場合は、上の関係から、静穏期間(Tpp)=約3日となりますので、11/26~27頃に前兆終息が観測されることが計算できます。
本日極大認識できることから、今月末近くまで、対応地震発生の可能性は無いと言えます。今後を観測し、続報します。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
大線領域内付近=可能性考え易い推定領域
※岐阜県~福井県 (石川県南部と滋賀県北部含)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期：前兆完全終息を観測したのち決定
現状考えやすい時期=11月30日±
- ◇推定地震種：震源浅い陸域日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)
(※前震発生の場合は無効)